

# 第3回 「日本の医療」を展望する 世界目線

～ 相対化で課題を探り、将来を見据える～

多摩大学大学院教授 真野俊樹

## 【台湾】日本に学んだ医療制度とその変化(1)

1912年、中華民国が中国に建国された。その後、1945年における日本の降伏後、中華民国は台湾の統治を引き継いだ。国共内戦後、中国共産党は中国大陸を完全に支配し、1949年には中華人民共和国を建国した。中華民国は政府を台湾へと移転し、同国の法域は台湾およびその周囲の諸島に限定された。1971年、中華民国が当初占有していた国際連合での中国の議席を中華人民共和国が引き継いだ。多くの国が中華人民共和国へと国際的承認を切り替えるにつれ、中華民国の承認は次第に失われてきた。人口は2344万278人(2015年現在)である。(Wikipediaより)

### 医療の状況

1995年から全民健康保険が実施され、国民皆保険が実現した。2009年の対国内総生産(GDP)比は6.1%で、対GDP比の医療費が2005年と比しても伸びていない。寿命は、2011年では男性が75.96歳、女性が82.47歳であり、アジアでは日本、韓国に次ぎ第3位である。

台湾の医療行政機関は、中央と地方である県、市政府の二つのレベルに分かれている。中央は、行政院衛生署(DOH、日本の旧厚生省に相当)であり、地方の医療行政機関は、23の県、市政府および台北、高雄の2直轄市が厚生

局を設立している。DOHは全国の医療行政事務を管理、指導と監督するとともに地方の厚生局を管理している。

台湾の病院は、経営母体によって公立病院、私立病院および財団法人病院に分けられたり、提供される医療サービスによって、総合病院、長期慢性病療養所、精神療養所に分けられたり、教育研究病院の有無(教育研究病院と非教育研究病院)、医療レベルによって、アカデミックメディカルセンター、地域病院及び診療所に分けられている。

台湾最大の私立総合病院「長庚(チャンガン)記念病院」グループのようにグループの総ベッド数が8000床以上の病院もあり、寡占が進んでいる。同病院は2004年では、一般病床の平均占有率が71.1%で、平均入院日数が9.6日であった。

台湾の高齢の医師は、戦中の日本語教育を受けて日本語が堪能だが、その数も徐々に減少しており、現在はアメリカへの留学が主流で、全体的には英語を話す医師が多い。大病院では、日本語対応のある診療センターを備える台北の台安医院をはじめ、日本語での診療が可能な病院は多くある。また、開業医には日本語で診療を受けられるところが多く、日本人が多く住む地域には日本人のかかりつけ医になっている施設もある。日本語が通じない大病院では、患者を世話するボランティアが多く、日本語の上手な人もいて通訳が可能な病院もある。

外来診療の自己負担は、医科、歯科などの部門、医療機関の種類別の定額であり、入院の自己負

担は、急性病棟・慢性病棟、入院期間別の定率となっている。

### 病院の事情

長庚記念病院グループや、政府直営の退役軍人病院である「榮民総合病院」グループの病院、国立台湾大学付属医院など台湾には巨大で設備の整った大病院が多くあり、中小の病院を整理統合していきながら、病院の大型化が進んでいる。そのため一部の市立病院などでは外科医の不足などの事態も起こっている。大病院ではそうしたことはなく、潤沢な医療要員と高度な医療設備をそろえ、医療技術も高く、日本や欧米と比較しても同等で、医療の水準は全く遜色がない。

特に電子カルテを含む、情報処理の面では日本の病院よりも進んでおり、インターネットによる診療予約が多くの病院で導入され、画像を端末のモニターに表示するPACSというシステムが普及し、遠隔地医療が幅広く活用されている。

反面、個人の診療所では、レントゲン装置のあるところは少なく、機器はあまりそろっていない。

### Min-Sheng General Hospitalについて

Min-Sheng General Hospitalは1975年にDr. Yang Min-Shengによって、17床のクリニックとして創設された。現在この本院は、医師は94人、看護師は599人、700床の3次救急の病院になった。

また、この病院グループは四つのコミュニティー病院を持ち、総ベッド数が1100床、二つのクリニック、三つのナーシングホームで230床、二つのサー



台湾で初めてJCI認証を受けたMin-Sheng General Hospital

ビス付き高齢者住宅で400人分、二つのデイケアセンターを持つ規模になった。脊椎外科、心臓血管外科のセンターや、減量のために行う胃の手術などでも有名である。

医療の質については、2006年にJCI (Joint Commission International)の認証を台湾で初、世界で99番目に受けている。長庚記念病院グループほどではないにせよ、台湾を代表する病院チェーンである。

### 台北医学大学病院の萬芳醫院について

1976年に開院した800床の病院をもととして作られたグループで、この萬芳醫院は1993年に開院された726床の病院である。さらに、2008年には1500床の病院も開院し、台北医学大学を中心に三つの大病院を運営しているグループである。

ベッドの内訳は急性期病床が488床、急性期の精神科病床が38床、集中治療室(ICU)が46床、透析が56床、ホスピスが10床などの専門性の高い病床がその他である。従業員は医師が231人、研修医が154人、看護師が745人、看護補助が76人、事務員が452人。

外来は、1日5000人弱(救急が182人)、病床占有率は82.36% (ICUは89.13%)、平均在院日数は7.83日(ICUは6.24日)、PHR(Personal Health Records)も含め患者向けデータの電子化も職員向けの電子カルテ同様に進んでいる。

品質改善に対しても熱心で、2014年にJCIの認証を受けている。ISO9000、労働安全衛生の基準であるOHSAS18000などの認証も受けている。



萬芳醫院を運営する台北医学大学病院